

# **ALPS処理水に係る対応 (国民・国際社会の理解醸成に向けて)**

**令和 4 年 4 月  
経済産業省**

## 安全性の発信のための取組①（流通関係者への説明）

- 基本方針決定以降、加工・流通・小売業者等に対して、説明会・意見交換を約50回実施。
- 適切な取引が実施されているか等の実態把握のため、資源エネルギー庁において事業者ヒアリングを開始。ヒアリングの結果も踏まえながら、風評影響の把握に向けて必要な調査を継続的に実施。

＜昨年度の事業者ヒアリングで寄せられた声（代表的なものを一部抜粋）＞

### 【風評影響について】

- ・日常使われるスーパー等の小売店では、顧客の健康への意識が高いことから、今回の海洋放出の動きにも比較的敏感であると思う。
- ・現時点で、ALPS処理水の海洋放出に伴って商品政策を変更することは考えていない。何か対応を検討するとすれば、売上が減少したとき。
- ・安全性が確保される限り、地場の水産物を取り扱い続けたい。

### 【今後の対策について】

- ・商品の安全性に関して、卸売業者が自ら取引先に説明できるようにしておくことが大切。
- ・小売業者として顧客からの問い合わせに対応できるよう、必要なデータを提供してもらいたい。
- ・小売業者等が商品政策を検討するのは3～4か月前であるため、海洋放出開始を予定している来年春から逆算して対策を行うことが必要。
- ・消費者に安全性を理解してもらうための対策を講じてほしい。（テレビで取り上げる、動画でわかりやすく説明する、データを比較して示す等）

## 安全性の発信のための取組②（学生向けの出前授業・ワークショップの実施）

- 福島県内外の高校等を対象に、出前授業や福島第一原発の視察を実施。
- 2月26日、27日に福島県内の高校生と「廃炉」に関する情報発信について考えるワークショップを開催し、A4リーフレットを作成。作成したリーフレット（参考資料1～4）は、資源エネルギー庁が出展するイベントや説明会等の場で実際に活用（4/9-4/10の富岡桜まつりでも配布。）。

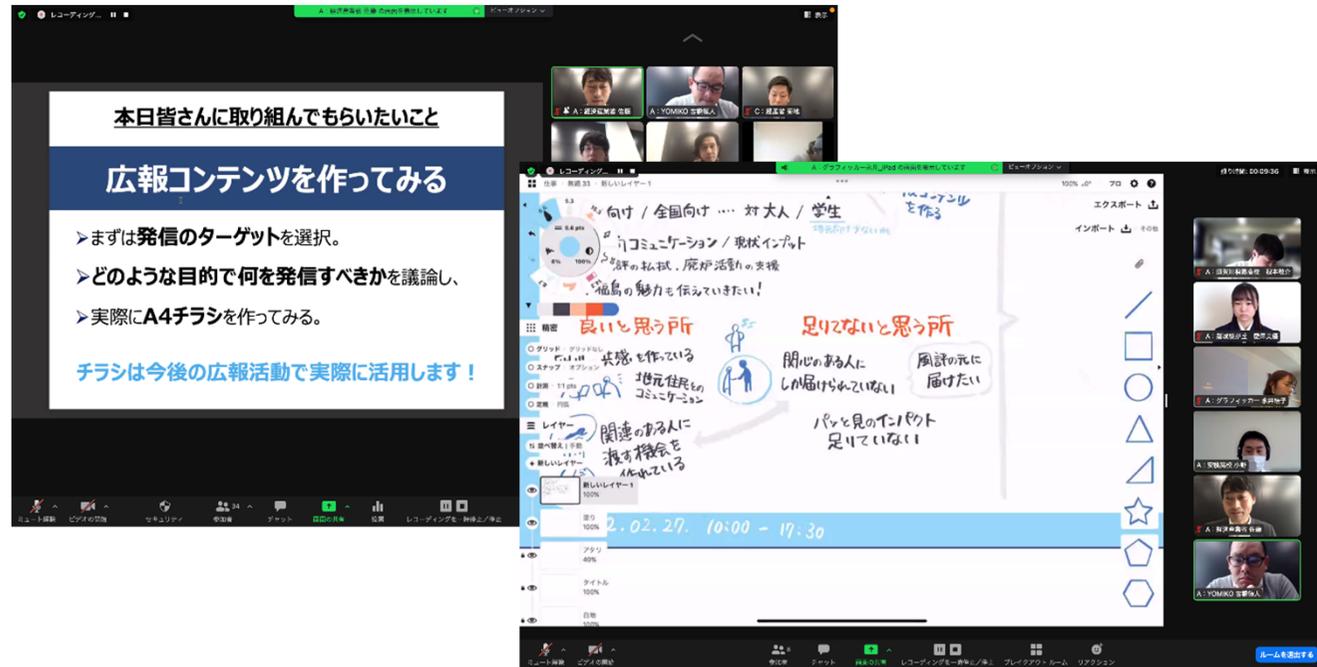
### <高校生に対する出前授業の様子>



2021.12.23 埼玉大宮北高校

生徒からは「学生より大人の方が知らないように感じるが、大人にはどう説明しているのか」「今後は、風評を信じている人など、自分と別の考え方の人の話も聞きたい」等の質問・感想があった。

### <2月のワークショップの様子>



各校混合グループに分かれて、現状の経済産業省のコンテンツに足りていないところはどこか、それを踏まえた上で何を伝えたいか・知ってもらべきか、どうしたら伝わるかを議論しました。議論の内容はグラフィックレコーディングを用いて可視化し、最終的に、A4のリーフレットに落とし込みました。

## 安全性の発信のための取組③（東京電力による海洋生物の飼育試験）

- ALPS処理水の安全性を消費者にわかりやすく伝える目的で、魚類等の飼育試験を実施予定。
- 3月17日より、飼育ノウハウの習得や設備設計の確認等のために、発電所周辺の海水を使って、ヒラメの準備飼育を開始。

<飼育風景①>



<飼育風景②（ヒラメの様子）>



準備飼育の様子（東京電力）⇒



# 製品の魅力発信のための取組①（各地でのイベントの開催・参加）

- ▶ 昨年12月、都内において、東北の食材を扱う方々を招き、その魅力を発信するとともに、風評の払しょくに向けて個人ができることを考えるオンラインイベントを開催（首都圏を中心に約750人が視聴）。
- ▶ 4月13日、14日、西日本最大級の水産見本市である「シーフードショー大阪」に、常磐・三陸地方の事業者が参加し、経済産業省も出展をサポート。また、出展者の方々に登壇いただくトークショーも会場内で開催。  
⇒ 全国の加工・流通・小売事業者や消費者に対し、直接、常磐・三陸製品の魅力や安全性についてアピールすることによって、全国における消費拡大につなげていく。

## ＜都内で行われたオンラインイベントの様子＞



視聴者から、「現地に行ってみたい、食品を食べてみたい」「実際に食べることで復興を応援したい」「復興のためには、放射線などについて正しく知ることが重要」というコメントが多数見られた。

## ＜大阪で行われたシーフードショーの様子＞



### 【見本ブース出展】

参加した事業者からは、「イベント出展の声がかかった」「見積もりやサンプルの提供の依頼があった」など、新規の契約につながる具体的な話ができたと評価をいただいた。

### 【トークショー】

出展者に登壇いただき、製品や地域の魅力、生産にかけるこだわりなどについて、自らの言葉で来場者にアピールいただいた。



### 【寿司イベント】

福島県の寿司職人の皆様のご厚意で、会場内で福島産のお魚を使用した寿司をふるまっていたいただき、多くの来場者に味わっていただいた。4

## 産品の魅力発信のための取組②（相双機構による福島県産品の販売促進）

- 福島相双復興推進機構において、浜通り地域等における水産関係の仲買・加工業者119者にアプローチし、90者の訪問が完了。
- 新商品開発・販路開拓支援要望を受けた51者に対して、具体的な支援を開始。
  - ⇒4事業者が関西の量販スーパーと取引成約、1事業者が東北の量販スーパーと取引成約、2事業者が東北の小売事業者と取引成約、1事業者が関西の宅配事業者と取引成約、2事業者が高速道路SAと取引成約、1事業者がいわき市のセレクトショップと取引成約、2事業者が大宮駅前に立地する東日本の特産品を取扱う交流拠点と取引成約
- 人材確保支援要望のある7事業者に対して13名の人材確保を実現。
- 現時点で支援要望がない事業者についても定期的にアプローチし課題掘り起こしを継続。



事例①（いわき産のタコ加工品×  
東北の小売事業者）



事例②（いわき産のサンマのポーポー焼き×  
関西の宅配事業者）



事例③（相馬産のボイルヤナギダコ×  
関西の量販スーパー）

# 製品の魅力発信のための取組③（中小企業施策における支援）

- ものづくり補助金、持続化補助金、JAPANブランド事業において、水産、農林、観光分野に対する取組を支援。令和3年度からは事業再構築補助金においても支援を開始。

## ものづくり補助金

### サケマス魚類の通年孵化による生産量と付加価値の向上

(株)林養魚場（福島県西郷村）

- 歩留まり率を上げ、通年を通して安定的な出荷を実現するため、水温調節器、孵化装置、紫外線殺菌装置を導入。水産加工業者からの増産要請に対応。



【併設のにじます亭】



【養魚場の様子】

## ものづくり補助金

### 電子レンジで焼き魚の食感が出せるプレミアム焼き魚生産体制の構築

ダイカツ水産(株)（茨城県大洗町）

- 「電子レンジで調理ができ、うま味、焼き魚の食感」を満足するプレミアム焼き魚の増産体制を構築。全自動深絞真空包装機を導入し、スーパー・コンビニにも販路拡大。



全自動深絞真空包装機



プレミアム焼き魚

## ものづくり補助金

### 未利用地域資源の高付加価値化に向けた生産性の向上と通年加工の実現 (株)バンザイ・ファクトリー(岩手県大船渡市)

- わかめ養殖が盛んな三陸地域で未利用資源となっていた「わかめ太茎」に係る高速裁断機と電気食品乾燥機を導入し、生産性と品質の向上、安定雇用を実現。



高速裁断機



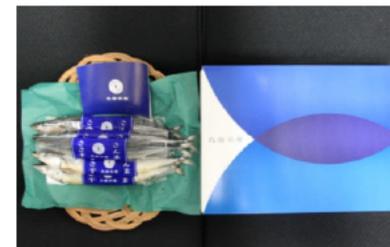
カットしたワカメ商品

## 持続化補助金

### 独自製法「さんまのささ干」の新パッケージデザインで販路拡大

(有)丸由水産（福島県いわき市）

- 主力商品である「さんまのささ干」の認知度向上に向け、商品の顔となる化粧箱のデザインを改良するとともに、割り箸や袋なども新たに開発し、贈答用としての価値を高めた。



【さんまのささ干と新デザインの化粧箱】

## 持続化補助金

### 外国人観光客が快適に安心できる民泊体験

Dana Village（福島県西会津町）

- 訪日外国人の来店機会の増加のため、民泊体験イベントのPRチラシを多言語（3か国語）で作成し、外国人受入団体等へ配布。誘導看板や玄関、洗面設備も改修し、顧客満足度向上につなげる。



【改修された洗面】

## JAPANブランド

### 「福島県産若桃の甘露煮」国内外販路開拓プロジェクト

あぶくま食品(株)（福島県伊達市）

- 福島県産若桃を使用した甘露煮の販路強化のため、国内外の展示会に出展。英語のテロップやレシピの動画も作成。海外への新規輸出が実現。



【若桃の甘露煮】



【ペニンシュラ香港カクテル採用】

## JAPANブランド

### 魚食普及の課題をクリア、国内外の多様なニーズへ対応

(株)及川商店（宮城県南三陸町）

- 地魚を使用した簡便・即食に対応した焼き魚の開発・販路開拓を実施。ジャパンインターナショナルフードショーなどへ出展しPR。



展示・商談会ブース



ぎんざけ

さば

# (参考) 廃炉に関する広報コンテンツの作成

▶ 様々な地域・年代の方々に対して情報発信を行うため、動画・書籍コンテンツを作成するほか、HPやSNSを活用するなど、多様な方法を用いた取組を実施。

## 短編動画の作成

### 1F FACT

長期にわたる廃炉作業について、地域・社会の皆様のご理解をいただくため、「福島第一原子力発電所から伝えたい事実」として、3つのテーマを取り上げて解説。



01 ALPS処理水の海洋放出

02 燃料デブリの取り出しに向けて

03福島第一原子力発電所の現状

## ALPS処理水Q&Aページの新設

ホーム ▶ ふくしまの今 ▶ 廃炉・汚染水・処理水対策情報トップ ▶ ALPS処理水の取扱いに関する質問と回答

### ALPS処理水の取扱いに関する質問と回答

#### Q1: 「ALPS処理水」とは?

福島第一原子力発電所の建屋内に存在する放射性物質に汚染された水を、多核種除去設備（通称「ALPS」）などを使い、トリチウム以外の放射性物質を規制基準以下まで浄化処理した水が「ALPS処理水」です。ALPS処理水にはトリチウムという放射性物質が残っていますが、トリチウムは水素の仲間であり、水道水や食べ物、私たちの体の中に普段から存在しています。規制基準を満たして処分すれば、環境や人体への影響は考えられません。

#### Q2: ALPS処理水はなぜ処分しなければならないのでしょうか?

ALPS処理水の処分は、廃炉の安全・着実な進捗と福島復興のために必要なことです。廃炉作業を進めていくためには、敷地内にスペースを確保する必要があります。しかし、現在はALPS処理水のタンクにより多くの敷地が占められています。このため、ALPS処理水の処分を行い、タンクを減らしていく必要があります。一方で、廃炉を急ぐことにより環境影響を生じさせることもあってはなりません。「復興と廃炉の両立」の大原則のもと、処分を進めていきます。

ALPS処理水に関して、よく寄せられる疑問や懸念についてQ&A形式で解説。

## パンフレットの作成



### 廃炉の大切な話 2022

地元の方々の疑問等にお答えするという観点で、毎年作成しているパンフレット。廃炉作業の進捗を踏まえ、2022年度版を作成。



### HAIRO MIRAI

学生の皆さんに、廃炉に対する理解を深め、未来を考えるきっかけとしてもらえるよう、新たに冊子を作成。

## 広報の取組の紹介ページの新設

▶ 廃炉・汚染水・処理水対策情報トップ ▶ ふくしまの今

福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策について、国内外の皆様にご理解をいただくため、広報の取組を行っています。このページではそうした取組の一部を紹介します。

※2021年9月以降に実施された活動で、公表について許諾を得ているものに限ります。

<p>2022年1月5日 出前授業</p> <p>安積高校、福島高校、ふたば未来学園</p> <p>安積高校、福島高校、ふたば未来学園の生徒の皆様へ、福島第一原子力発電所を視察いただくとともに、ALPS処理水の海洋放出について説明・意見交換を行いました。</p>	<p>2021年11月23日 出前授業</p> <p>埼玉大宮北高校</p> <p>埼玉大宮北高校において、福島第一原子力発電所の廃炉の現状などに関する出前授業を行いました。</p>	<p>2021年12月7日 説明会</p> <p>仙台ロータリークラブ</p> <p>仙台ロータリークラブの皆様へ、福島第一原子力発電所の廃炉や福島復興の状況について説明を行いました。</p>
<p>2021年11月26日 説明会</p> <p>茨城県での説明</p> <p>茨城県の自治体や関係団体を対象に、ALPS処理水の処分に関する基本方針</p>		
<p>2021年11月24日 説明会</p> <p>第4回処理水の取扱いに関する</p>		

地元イベントへの出展や出前授業など、資源エネルギー庁において実施した広報の取組を掲載。

# (参考) 新聞広告の掲載

➤ 国内の主要地方紙に、ALPS処理水に関する科学的根拠に基づく情報を記載した新聞広告を掲載。 今後も定期的に掲載を予定。

⇒ 地元はもちろんのこと、様々な地域の人々が、ALPS処理水に関する情報に触れる機会を創出。 今後、テレビやラジオといった媒体と連携することも検討。

全面広告

## 知ってほしい、ALPS処理水のこと ～復興に向けた東京電力福島第一原発の廃炉の取組～

**ALPS (アルプス) 処理水とは？安全なのか？**

- 原子炉内の高レベル放射性物質に汚染された水 (汚染水) を多核種除去設備 (ALPS) を使って、トリチウム以外の放射性物質を浄化処理した水のことです。
- トリチウムという放射性物質は、取り除くことが非常に困難ですが、海水で大幅に薄めることで、十分に安全基準を満たすことができます。



●トリチウムとは  
● 濃縮された高レベル放射性物質、海洋汚染、人の健康にも与えている放射性物質です。  
● 放射性物質に汚染された水は、取り除くことが非常に困難です。

● 原子炉内、高レベル放射性物質を取り出す、廃炉作業の妨げにならないよう、海水で大幅に薄める

● トリチウムも、放出可能な基準を満たす

● 全ての放射性物質が、安全基準を満たす

● 海洋で大幅に薄める

● トリチウム

● 放射性物質が、安全基準を満たす

● 放射性物質による周辺地域等へのリスクを徐々に減らしていく必要があります。

● 原子炉内の高レベル放射性物質を取り出し、安全に保管して作業を進めますが、そのためには広大なスペースが必要であり、1000基を超えるタンクが敷地を占有する状況が生じる必要があります。

● また、タンクを維持し続ける場合は、老朽化や災害による漏洩など、別のリスクを生じさせる可能性があります。

● そのため、適切に管理した処分を進める必要があります。

**ALPS処理水はなぜ処分しなければならないのか？**

**ALPS処理水は海洋放出で安全に処分できるのか？**

● 海洋の放射性廃棄物は、世界中の様々な原子力施設で、安全性に関する国際的に共通な考え方に基づいて海洋放出が実施されています。

● ALPS処理水の海洋放出に当たっては、国内の規制機関による監視はもちろん、国際機関であるIAEAの協力も得つつ、客観性・透明性をもって、安全を確保した上で実施します。

**政府は、ご意見・ご要望を伺いながら、安全性の確保を大前提に、風評影響への対策をしっかりと進めていきます。**

安全確保	情報提供	風評対策
<ul style="list-style-type: none"> <li>● IAEAによる安全性の評価</li> <li>● 第三者も観与するモニタリングの実施</li> <li>● 評価結果の透明性高い発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全性に関する正確でわかりやすい情報発信</li> <li>● 多くの方に繰り返し何度も説明</li> <li>● 国際社会への積極的な情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産性向上や振興策などの実施</li> <li>● 万一の被害減少に向けた基金</li> <li>● それでもなお発生した風評被害に対し、被害者の立場に寄り添う対応</li> </ul>

● トリチウム以外の放射性物質も、放出可能な基準を満たすまで浄化処理する

● トリチウムも、放出可能な基準を満たすよう、海水で100倍以上薄める

● 全ての放射性物質が、安全基準を満たす

● トリチウム以外の放射性物質も、放出可能な基準を満たすまで浄化処理する

● トリチウムも、放出可能な基準を満たすよう、海水で100倍以上薄める

● 全ての放射性物質が、安全基準を満たす

● トリチウム

● 放射性物質が、安全基準を満たす

● 放射性物質による周辺地域等へのリスクを徐々に減らしていく必要があります。

● 原子炉内の高レベル放射性物質を取り出し、安全に保管して作業を進めますが、そのためには広大なスペースが必要であり、1000基を超えるタンクが敷地を占有する状況が生じる必要があります。

● また、タンクを維持し続ける場合は、老朽化や災害による漏洩など、別のリスクを生じさせる可能性があります。

● そのため、適切に管理した処分を進める必要があります。

**ALPS処理水の海洋放出に当たっては、国内の規制機関による監視はもちろん、国際機関であるIAEAの協力も得つつ、客観性・透明性をもって、安全を確保した上で実施します。**

● トリチウム以外の放射性物質も、放出可能な基準を満たすまで浄化処理する

● トリチウムも、放出可能な基準を満たすよう、海水で100倍以上薄める

● 全ての放射性物質が、安全基準を満たす

● トリチウム

● 放射性物質が、安全基準を満たす

● 放射性物質による周辺地域等へのリスクを徐々に減らしていく必要があります。

● 原子炉内の高レベル放射性物質を取り出し、安全に保管して作業を進めますが、そのためには広大なスペースが必要であり、1000基を超えるタンクが敷地を占有する状況が生じる必要があります。

● また、タンクを維持し続ける場合は、老朽化や災害による漏洩など、別のリスクを生じさせる可能性があります。

● そのため、適切に管理した処分を進める必要があります。

**ALPS処理水についてもっと詳しく知りたい方はこちら**

● 原子炉内・廃炉水対策ポータルサイト ● 資源エネルギー庁スペシャルコンテンツ

● 原子力機構 ● 経済産業省

## 知ってほしい、ALPS処理水のこと ～復興に向けた東京電力福島第一原発の廃炉の取組～

**ALPS (アルプス) 処理水とは？安全なのか？**

- 原子炉内の高レベル放射性物質に汚染された水 (汚染水) を多核種除去設備 (ALPS) を使って、トリチウム以外の放射性物質を浄化処理した水のことです。
- トリチウムという放射性物質は、取り除くことが非常に困難ですが、海水で大幅に薄めることで、十分に安全基準を満たすことができます。



●トリチウムとは  
● 濃縮された高レベル放射性物質、海洋汚染、人の健康にも与えている放射性物質です。  
● 放射性物質に汚染された水は、取り除くことが非常に困難です。

● 原子炉内、高レベル放射性物質を取り出す、廃炉作業の妨げにならないよう、海水で大幅に薄める

● トリチウムも、放出可能な基準を満たす

● 全ての放射性物質が、安全基準を満たす

● 海洋で大幅に薄める

● トリチウム

● 放射性物質が、安全基準を満たす

● 放射性物質による周辺地域等へのリスクを徐々に減らしていく必要があります。

● 原子炉内の高レベル放射性物質を取り出し、安全に保管して作業を進めますが、そのためには広大なスペースが必要であり、1000基を超えるタンクが敷地を占有する状況が生じる必要があります。

● また、タンクを維持し続ける場合は、老朽化や災害による漏洩など、別のリスクを生じさせる可能性があります。

● そのため、適切に管理した処分を進める必要があります。

**ALPS処理水はなぜ処分しなければならないのか？**

**ALPS処理水は海洋放出で安全に処分できるのか？**

● 海洋の放射性廃棄物は、世界中の様々な原子力施設で、安全性に関する国際的に共通な考え方に基づき、日常的に海洋に放出されています。

● ALPS処理水の海洋放出は、国内の規制機関の監視はもちろん、IAEAの協力も得つつ、客観性・透明性をもって、安全を確保した上で実施されています。

**ALPS処理水の海洋放出に向けた政府の取組**

● 第三者機関のチェックによる安全確保 ● 国内外に対するわかりやすい情報発信 ● 万一の風評に備えた事業者支援

ALPS処理水についてもっと詳しく知りたい方はこちら

● 原子炉内・廃炉水対策ポータルサイト ● 資源エネルギー庁スペシャルコンテンツ

● 原子力機構 ● 経済産業省

● 全国の主要地方紙約50紙 (計読者数およそ1300万人) に、広告記事を掲載。